vol.1
7
2025 JULY

くすのきタイムズ

KUSUNOKI TIMES

特集

スペシャルインタビュー

病院長 黒田 良祐

技術×心

テクノロジーの活用と人間的なホスピタリティで未来の医療を支える

CONTENTS

特集『スペシャルインタビュー』… 2・3
TOPICS『臓器提供の支援事業における拠点施設に選定されました!』…4
健康手帳『夏期に流行する小児の発熱性疾患』…5
健康レシピ『鶏肉と野菜のレタス包み』…6
お知らせ『診療予約について』…7

神戸大学医学部附属病院
Kobe University Hospital

技術×心 テクノロジーの活用と人間的なホスピタリティで未来の医療を支える

地域医療における「最後の砦」として

神戸大学医学部附属病院の歩みを教えてください。

神戸大学医学部附属病院の歩みは、1869年に設立された「神戸病院」までさかのぼります。当時、伊藤博文初代兵庫県知事が開設に尽力し、多くの方々の寄付によって設立されました。その後、1877年に「公立神戸病院」と改称し、長年にわたり地域医療の中核を担ってきました。2019年には神戸港開港150周年に続き、当院も創立150周年を迎えることができました。

この歩みは、地域の皆さまのご支援の賜物です。病院長として、地域医療における我々の責任の重さをあらためて実感しています。

地域医療で担うべき役割について、どのようにお考えですか?

神戸は、古くから貿易の拠点として栄え、勝海舟による海軍操練所の設立などに象徴されるように、国際的な歴史を持つ街です。このように、多様な文化や価値観が息づく環境は、国際的に活躍する人材の育成において非常に恵まれた土壌といえるでしょう。このような多様性に富んだ文化的背景は、国際的な視野を持つ医療人材の育成にとって理想的な環境だと考えています。私たちは、この地の利を生かし、世界に貢献できる優れた医療人・研究者の育成に注力しています。

加えて、当院は厚生労働省から「臨床研究中核病院」に指定されています。高度な治験や先進医療の推進、そして基礎から臨床にわたる多様な研究活動を通じて、医学の進歩と医療技術の向上に取り組んでいます。

さらに、患者さんにとって安全で、最良かつ最善の治療を提供する病院であることも重要な役割です。当院は「地域がん診療連携拠点病院」、「エイズ治療拠点病院」、「がんゲノム医療拠点病院」として、神戸市内はもちろん兵庫県全域から重症の患者さんを受け入れています。地域医療における"最後の砦"として、多様化する医療ニーズに柔軟に対応することが私たちの最大の使命です。

国際都市神戸ならではの取り組みについても教えてください。

2017年に開設した「International Medical Communication Center(IMCC)」では、外国人の患者さんの受け入れ支援や通訳派遣、国際医療に関する教育・啓発活動など、幅広い業務を展開しています。日本語が不自由な患者さんにも安心して診療を受けていただけるよう、通訳体制を整備しました。これは単なる語学対応にとどまらず、異文化理解と医療安全の両立を目指す重要な施策です。

2018年には、国際がん医療・研究センター内に「International Patient Reception Desk(IPRD)」を設置し、海外から当院の高度医療を求めて来日する患者さんへのサポート体制を強化しました。2019年には、外国人の患者さんの受け入れ実績と体制が評価され、「外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)」の認証も取得しています。神戸という国際都市の特性を最大限に活かした医療のグローバル化は、今後さらに加速していくと思います。

特集 SPECIAL Interview(スペシャル インタビュー)

神戸大学医学部附属病院長
黒田 良祐

Profile 1990年神戸大学医学部卒業後、米国クリーブランドやピッツバーグでスポーツ整形外科学や再生医療研究に従事。2016年に神戸大学整形外科学教授と神戸大学医学部附属病院整形外科長に就任。副病院長、神戸大学医学部附属病院国際がん医療・研究センター長を歴任し、2025年4月に現職就任。多くのスポーツチームをサポートするチームドクターとしても活躍している。

手術支援ロボットや医療DX化で広がる未来

国内向けに取り組んでいることはありますか?

医療DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進に取り組んでいます。これは、デジタル技術を活用して医療の質と効率を高める取り組みです。オンライン診療の強化や電子カルテによる情報共有を進めることで、遠隔地にお住まいの方々にもより良い医療を届けたいと考えています。もちろん実際の治療となるとご来院いただくことになりますが、診療の入り口として活用すれば患者さんにとっての利便性も格段に上がるはずです。また、デジタルで情報を共有することにより、救急車やドクターヘリの受け入れがスムーズになります。人口減少や高齢化といった社会課題が進行するなかで、医療の質を維持しつつ、効率性を高める手段としてDXは非常に重要です。

手術支援ロボット「hinotori」の導入と開発についてはいかがですか?

我々は、国産手術支援ロボット「hinotori」の開発に初期段階から関与しており、これまで培ってきた知見は当院にとって大きな財産です。国内でのシェア拡大にとどまらず、シンガポールなど海外への導入も始まり、グローバルな展開が進んでいます。

このロボットの利点は、患者さんの身体的負担を大幅に軽減できる点に加え、術者にとっても操作性が高く、安全な手術環境を提供できることです。当院では泌尿器科、婦人科、消化器外科で保険適用となっており、小児外科にも導入されています。現在では遠隔手術の実証実験にも使われており、未来の医療技術の一端を担う存在となっています。

遠隔手術とはどのような技術ですか?

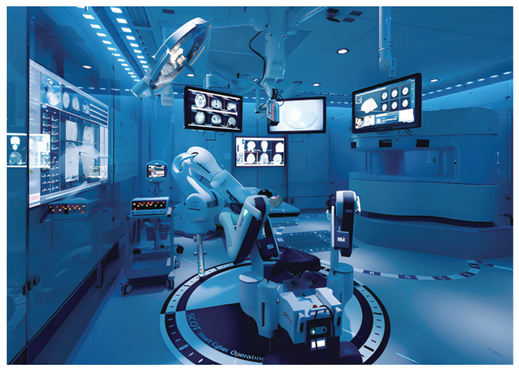
遠隔手術は、通信技術と手術ロボットを活用し、術者が離れた場所からリアルタイムで手術を行う革新的な技術です。神戸大学では2024年7月、次世代通信「5Gワイド」を用いた遠隔ロボット手術支援の実証に成功しました。今後は実用化に向けたさらなる研究・検証を重ねていく予定です。

この技術は、都市部と地方の医療格差の是正や、医師不足が深刻な地域への支援策としても期待されており、日本の医療に新たな可能性をもたらすものと考えています。またAIと連携させたスマート治療室(SCOT)の導入により、診断から治療までを一体化・デジタル化する取り組みも進行中です。今後は病院内に複数のロボットが協働する未来も現実のものとなっていくでしょう。

そのような未来を見据える今、医療者にとって大切なこととは?

どれほど技術が進歩しても、「誰もが健康で長生きしたい」という思いは変わりません。医療がその願いを支えるためには、精度の高い技術だけでなく、人間的な「温かさ」も欠かせません。

ロボットやDXを活用することで、患者さんの負担や医療従事者の負担は確実に軽減されますが、それだけで良い医療が実現するわけではありません。私たちは、患者さんに寄り添うホスピタリティをこれまで以上に大切にし、「技術」と「心」の両輪で未来の医療を築いていきたいです。



TOPICS

トピックス

臓器提供の支援事業における拠点施設に選定されました!

日本では、毎年約600人が臓器移植を受けており、登録している人は約16,000人です。しかし、臓器提供者（ドナー）は不足しており、移植を希望する多くの患者さんが治療を受けられない状況が続いています。一方で、一般市民を対象とした世論調査によると39.5%の人が、ご自分が脳死と言われる状態になった場合に臓器を提供したいと回答しています。しかし、実際に臓器提供の意思表示をしている人の割合は10.2%と、意思を持っている人が具体的な意思表示に結びついていない傾向が見られます。また、現在の法律では、脳死となった方が生前に臓器提供を拒否していない場合、ご家族のご希望があれば脳死下臓器提供が可能となります。そこで、患者さんやそのご家族の臓器提供をする、またはしないというご意思をしっかり拾い上げなければなりません。このために神戸大学で行っている様々な活動をお知らせします。

❶臓器提供施設連携体制支援事業における拠点施設

令和7年度臓器提供施設連携体制支援事業における拠点施設に選定されました。この事業は、脳死下及び心停止後の臓器提供の経験が豊富な施設（以下「拠点施設」）が、臓器提供の経験が少ない施設等（以下、「連携施設」）に対して、臓器提供が可能なものを確実に把握し、適切に終末期医療の一環として臓器提供に関する説明を行い、脳死判定から臓器摘出までのマニュアル作成や人材育成等について助言するとともに、臓器提供が可能な事例が発生した際に、拠点施設と連携施設の間で医師、看護師、院内ドナーコーディネーター、検査技師、その他臓器移植に係る所定の研修を修了した者等の各職種が応援に駆けつける等の支援を行うことで、地域における臓器提供体制の構築を図ることを目的としています。

❷当院における臓器移植に関する行事

当院では臓器移植に関する以下の行事を行っています。関係者の皆様においてはぜひご参加ください。

・臓器移植フォーラム（12月～1月）
・法的脳死判定シミュレーション（随時）
・手術室シミュレーション（随時）
・机上シミュレーション（随時）

❸意思確認書の配布

臓器提供に関する意思確認書を配布しています。2022年4月からすべての入院患者さんを対象に、入院パンフレットに「臓器提供に関する意思確認書」を掲載しています。また、患者さんやご家族からのご質問にも対応しています。

このように患者さんやそのご家族の脳死下臓器提供に関するご意思を拾い上げる活動を展開しております。ご理解いただけますと幸甚です。

文責:院内移植コーディネーター・救命救急センター長　小谷穣治

臓器移植フォーラム

法的脳死判定シミュレーション

手術室シミュレーション

HEALTH RECORD

健康手帳

夏期に流行する小児の発熱性疾患

夏に流行する小児の発熱性疾患には、一定の特徴が存在します。主にウイルス性疾患が主流ですが、その他気温の上昇に伴い細菌性腸炎（いわゆる食中毒）にも注意が必要です。ウイルス性疾患は感染力が強く、注意深い診断と管理が求められます。今回はウイルス感染症に関してポイントを整理します。

まず、夏に多く見られる代表的なウイルス性疾患には、コクサッキーウイルスやエンテロウイルスによる手足口病、ヘルパンギーナ（夏風邪）などがあります。これらは感染力が高く、集団感染のリスクも伴います。いずれも咽頭部にアフタ性の口内炎を発症し、飲み込む際に咽頭に激痛を伴います。乳幼児ではよだれが増え、水分を取るのも嫌がることもあります。ほとんどの場合自然に治癒しますので、急性期の脱水症の発症を防ぐために適切な水分の補給を心がけてください。また、近年、数年ごとに流行するエンテロウイルス71型による手足口病の患者さんで、中には、神経症状や死に至るケースも報告されており、早期診断と適切な対応の必要性が高まっています。特に、神経症状や意識障害、呼吸困難などの合併症が見られる場合は、速やかに入院管理を検討すべきです。

加えて、かつては冬の感染症と言われていたRSウイルスによる呼吸器感染症が近年は毎年のように夏期に大流行しております。年長児が感染しても咳鼻水を伴う風邪にすぎませんが、1歳未満で特に未熟児出生や、基礎疾患を有する患者さんでは重症化しやすく、時には人工呼吸管理が必要になることや、死に至る場合もあります。現時点では発症後に有効な治療薬は存在しません。重症例の診断にあたっては、臨床症状とともに迅速検査やPCRを活用し、ウイルスの特定を行うことが推奨されます。治療は対症療法が中心ですが、熱が続く場合や重症例には適切な入院・観察を行います。

最後に、予防の観点からは、手洗いと消毒、感染者の隔離、適切な休息と水分補給が基本です。最近の研究では、感染予防の教育により、感染拡大の抑制に一定の効果も示されています。

夏期の小児疾患に対しては、感染パターンの把握と早期対応が鍵となります。医療関係者は常に最新の情報をアップデートし、適切な診断・管理を心がけることが求められます。

文責:小児科　野津寛大

HEALTHY RECIPE

健康レシピ

夏のさっぱりおもてなし料理編　一品料理で満足感アップ

鶏肉と野菜のレタス包み

※写真のお皿は直径23.0cm、盛り付けは1人分です。

暑さも日々増していき、本格的な夏の気配を感じる季節となりました。
今回は中華料理の一つであるひき肉をレタスで包んで食べる「生菜包（センサイパオ）」をアレンジした料理を紹介します。

ピーマンやパプリカに含まれるビタミンやミネラルは体の調子を整え、疲労の回復に繋がります。暑さを乗り切るための一品にしてはいかがでしょうか。

春雨を油で揚げるというひと手間で見た目も豪華になり、おもてなし料理に最適です。ぜひ、お試しください。

材料（2人分）

	ささみ	100g
	料理酒	10g（小さじ2）
	片栗粉	10g（大さじ1）
Ⓐ	レンコン	100g
Ⓐ	ピーマン	100g（3個）
Ⓐ	赤パプリカ	80g（1/2個）
Ⓐ	黄パプリカ	80g（1/2個）
Ⓐ	シイタケ	20g
	緑豆春雨	10g
	揚げ油	適量（※）
	レタス	60g（2枚）
	（たれ）	
Ⓑ	赤味噌	10g
Ⓑ	減塩醤油	10g（小さじ2）
Ⓑ	料理酒	10g（小さじ2）
Ⓑ	低エネルギー甘味料（粉末）	1.7g
Ⓑ	オイスターソース	3.5g
Ⓑ	中華スープの素	1.7g
	片栗粉	10g（大さじ1）
	水	20g
	胡椒	適量

作り方

・緑豆春雨を揚げ油185℃でサッと揚げる。
・Ⓐの野菜とささみを1cm角に切る。
・レタスは食べやすい大きさにカットする。

1. カットしたⒶの野菜を下茹でする。
2. ささみに料理酒と片栗粉を揉みこんでから火が通るまで下茹でする。
3. 茹でた野菜と肉は水を切っておく。
4. Ⓑを混ぜて火にかけ沸騰させ、水に溶かした片栗粉を加え、ダマにならないように注意して餡を作る。その餡の中に3.を入れて軽く炒める。
5. 皿に揚げた春雨を砕いて敷き、その上に具をのせ、仕上げに胡椒を振る。
6. レタスを添える。

※栄養量は緑豆春雨の給油率25%で計算しております。

計量の単位:大さじ1=15ml、小さじ1=5ml

栄養量（1人分）

エネルギー	219kcal
たんぱく質	15.5g
脂質	2.4g
炭水化物	33.5g
糖質	29.1g
食物繊維	4.4g
食塩相当量	1.6g

ここがPOINT

●野菜が1人当たり200g以上摂取でき、色彩も鮮やかです。また、レタスに包んで食べることで夏にさっぱりとした食感が楽しめる一品となっています。
●一般的にはひき肉を使いますが、ささみに変えることで脂質を1/10程度に抑えることができます。
●レタスに包む以外にもごはんに乗せて食べるなど様々なアレンジをお試しいただけます。

メニュー考案:エームサービス（株）　梶本 裕也、編集:栄養管理部　田中 貴和

食事・栄養についてのご相談は、月～金曜日に予約制で行っています。医師、看護師、管理栄養士にお申し出ください。

●栄養相談に関する問い合わせ先
栄養管理部 ☎078-382-6820（直通）
受付時間 平日9:30～17:15

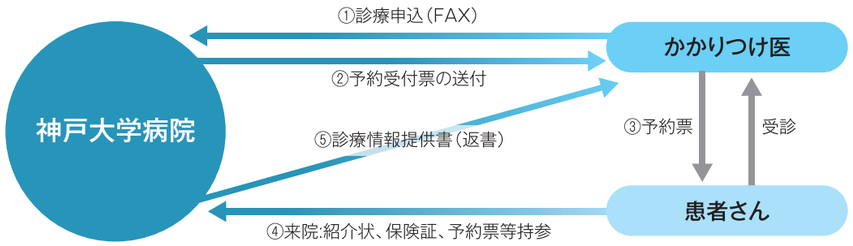
NOTIFICATION

お知らせ

診療予約について

当院での診療をご希望される方は、かかりつけ医を通じて予約申込を行っていただきますようお願いいたします。患者さんから直接のご予約・お問い合わせはお受けしておりません。ご了承ください。

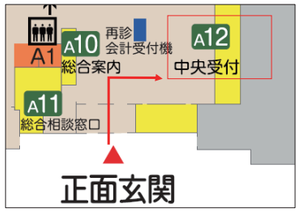
ご紹介予約の流れ



紹介予約申込書は病院HPからダウンロードが可能です。詳細はこちらから

●診療申込（前日までに予約をお願いいたします）:
紹介予約申込書、診療科コード表、診療情報提供書（紹介状）の3点をFAXで送付ください。紹介予約申込書のみで申込は可能ですが、診療情報提供書は申込日当日に必ずFAXで送付ください。（申込時に診療情報提供書が必須となる診療科がございます。詳細はコード表にてご確認ください。）
また、診療に必要な画像（CD-R）は事前に当院電子カルテシステムに取り込むことが可能です。患者さんの待ち時間短縮になりますので、出来る限り予約日の3診療日前までにご郵送ください。
【送付先:患者支援センター　地域連携部門】

●受診:
受診日当日は外来診療棟1階**【A12:中央受付3番窓口】**へお越しください。
なお、受診日に検査を希望されていても、
医師の判断や予約状況等によっては検査をお受けできない場合があります。
あらかじめご了承ください。



●予約の変更について:
予約日時の変更、キャンセルの際は、必ず紹介元医療機関を通じて地域連携部門予約担当へご連絡ください。
病状による受診日の判断が必要なため、患者さんご自身からの予約変更・キャンセルは受け付けておりません。ご連絡は紹介元医療機関よりお願いいたします。

●患者さんの未来院時の対応について:
予約日時を過ぎますとキャンセルとなります。
確認のため、紹介元医療機関へご連絡させていただきます。
改めて受診を希望される場合は、もう一度予約申し込みが必要になります。

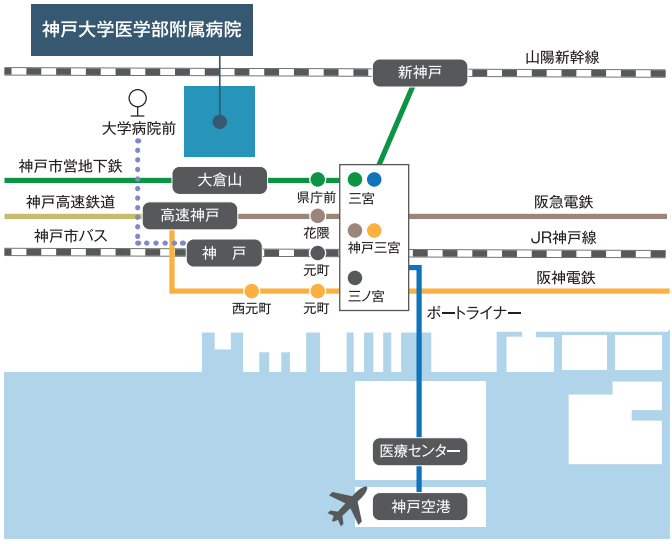
医療機関専用
【お申込み・お問い合わせ先】
神戸大学医学部附属病院
患者支援センター
地域連携部門

TEL：078-382-5264（予約専用）
FAX：078-382-5265 または 078-382-2650（24時間受付）

予約受付時間
【TEL】平日 8:30～17:00　【FAX】平日 8:30～19:00／土曜 9:00～12:00
（日曜・祝日、年末年始、GWを除く）
※予約受付時間以外のお申込みは翌診療日のお取り扱いとなります。

神戸大学医学部附属病院 | 交通アクセス

〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2 TEL.078-382-5111 FAX.078-382-5050
https://www.hosp.kobe-u.ac.jp/index.html



電車をご利用の方

- ●神戸市営地下鉄「大倉山」駅下車 徒歩約5分
- ●JR「神戸」駅下車 徒歩約15分
- ●神戸高速鉄道「高速神戸」駅下車 徒歩約15分

バスをご利用の方

- ●JR神戸駅前より神戸市バス 110系統もしくは 112系統に乗車 約5分「大学病院前」バス停下車

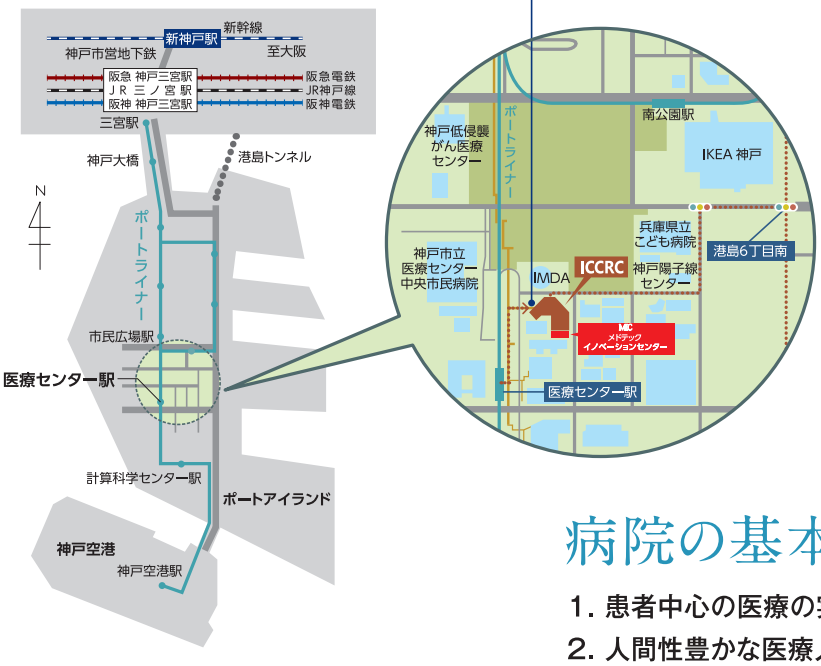
タクシーをご利用の方

- ●JR神戸駅前より約5分
- ●JR新神戸駅前より約10分

国際がん医療・研究センター | 交通アクセス

〒650-0047 神戸市中央区港島南町1丁目5-1 TEL.078-302-7015 FAX.078-302-7147
https://www.hosp.kobe-u.ac.jp/iccrc/

改札を出て右側のムービングウォークを直進し、右手の直結歩道橋より受付（2F）へ



電車をご利用の方

- ●三宮駅よりポートライナー「神戸空港行」乗車約12分「医療センター駅」で下車し北へ徒歩100m
- ●神戸空港駅よりポートライナー「三宮行」乗車約5分「医療センター駅」で下車し北へ徒歩100m

車をご利用の方

- ●阪神高速13号線西行き「生田川」I.C・東行き「京橋」I.Cから神戸大橋を渡りおよそ15分
- ※三宮東の港島トンネルも利用可能
- ※1階駐車場を一般利用者として有料で利用可 最初の60分無料、以降1時間毎100円

神戸空港をご利用の方

- ●「神戸空港駅」からポートライナー「三宮行」乗車約5分「医療センター駅」で下車し北へ徒歩100m

病院の基本理念

1. 患者中心の医療の実践
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 先進医療の開発と推進
4. 地域医療連携の強化
5. 災害救急医療の拠点活動
6. 医療を通じての国際貢献

くすのき タイムズ
vol.1 7 2025 JULY
KUSUNOKI TIMES
発行責任者：病院長　編集：病院広報委員会

KOBE UNIVERSITY 神戸大学医学部附属病院
Kobe University Hospital
〒650-0017 神戸市中央区楠町7丁目5-2
078-382-5111（代表）　078-382-6243（予約変更専用）
月～金曜日（休診日除く）　13:00～16:30 のみ（原則、予約変更は受診日の2日前まで）